

## 子どもたちが健康で元気に 自分らしく成長できるまち

コロナ禍のもとで、  
少人数学級の必要が高まっている  
子どもたち一人ひとりの個性を伸ばせる  
きめ細やかな教育を実現する

## 市民一人ひとりが 自分たちでつくるまち

誰もがいつでも気軽に市政に参加できる  
仕組みを作り、住民の声がしっかりと  
反映される行政にする

## 騒音のない平和な空を 守れるまち

航空機やヘリコプターの離着陸による  
騒音を減らし、墜落する危険性が高い  
オスプレイを飛来させない

コロナを克服して  
住みやすいまち

鎌ヶ谷を！



住みやすいまちって、どんなまち？

三人よれば文殊の知恵  
名もなき市民がよりあつまって  
いろいろなアイデアを  
交換しあってみました

かがやを考える会  
事務連絡先

TEL 090-6937-3313 (佐藤)

FAX 047-444-0845

## 新型コロナウイルスから 市民の生命と暮らしを 守るまち

いつでも、誰でも、何度でも、無料で  
PCR検査を受けられる仕組みを作る  
地域の医療と福祉を充実させる

## 緑が豊かで環境に やさしいまち

再生可能エネルギーで、  
地域の電力の自給率をあげていく  
地産地消など、農業を地域で支える  
誰もが安全に通行できる道を整備する

## 障がい者や高齢者 ひとり親世帯を支えるまち

何でもかんでも自己責任にする  
のではなく、きちんと行政が  
責任をもち、公助による  
「わかちあいの社会」を築く



Special Interview  
 前千葉県議 ふじしろ政夫さん  
 アフターコロナの社会を作る  
 キーワードは  
 「わかちあい」

インタビュアー 佐藤 つよし

鎌ヶ谷市市制記念公園にて

● 新型コロナの感染拡大が問題となって一年になります。アフターコロナの社会を見据えて、いま自治体がすべきことはなんですか？

まずは、新型コロナの感染拡大と医療の崩壊を防ぐために、PCR検査体制の拡充が必要だと思います。

● 具体的にはどういふことですか？

まず、医療現場のお医者さんや看護師さん、介護施設や障がい者施設に入所されている方々や職員さんなどが、いつでも、無料でPCR検査を受けられる体制を作り、新型コロナの蔓延を防ぐことが大切です。

● 今回のコロナ災害では、今までとは違った貧困が広がっているとも聞きますが、これに対する対策はどうですか？

格差や貧困が急速に広がっていますが、それを自己責任にしてはいけません。コロナ災害によって、これまで30年間の経済構造の歪みが明らかになった結果です。新たな経済の形を、地方から示していく必要があると思います。

● それは、どんな経済の形ですか？

端的に言えば、市民が支えあう「わかちあい」の経済です。

● 「わかちあい」というのは、自己責任的な「共助」とは違うのですか？

いいえ、違います。自己責任にするのではなく、きちんと「公」が責任を持つ経済の仕組みです。「食べること」「住むこと」「医療を受けること」これは人が生きる上での基本です。この三つについては、「公」がしっかりと保障して、誰もが安心して過ごせる経済の仕組みを作ることが大切です。



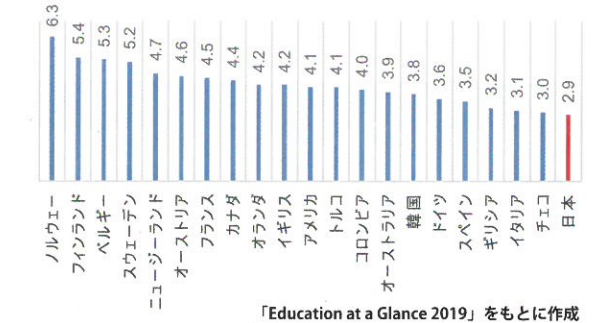
● 子育てや教育についてはどう考えますか？

子育て世代への支援はとても大切です。特に、新型コロナの流行の収束が見えない中、ひとり親世帯の経済的困窮は深刻です。貧困状態におかれた子どもたちを救うために、給食費の無償化、少なくとも公費による補助は必要だと思います。さらに、もっと多くの鎌ヶ谷産野菜を給食で利用するようになれば、地域の農業の活性化にもつながります。

● 新型コロナの感染防止策として、教室が密になるのを避けるため、クラスの生徒を1/2ほどにしたら、授業の内容がいつもよりよくわかったという話も耳にしますね。

少人数学級の方が子どもたちに行き届いた教育ができることは、かねてより指摘されていたことです。また、先生方にとっても、ゆとりを持って子どもたちと関わることができ、教師の働き方改革にも結びつきます。日本は、教育の公費負担率<sup>(※)</sup>が、国際的にみて低いのですが、これを機に、そうした状況を是正し、教育の質を高めていくことが、地域、ひいては国の豊かさにつながるのではないのでしょうか。

(※) 教育費の公的支出が国内総生産(GDP)に占める割合



ふじしろ政夫プロフィール

慶應義塾大学法学部法律学科卒業  
 1980年から鎌ヶ谷市に在住  
 鎌ヶ谷市議会議員を2期、千葉県議会議員を2期つとめる